

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	地球温暖化:ジャクソンブラウンの憂い
別タイトル	Jackson Brown worried about global warming
作成者(著者)	赤坂, 喜清
公開者	東邦大学医学会
発行日	2021.12.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 68(4). p.141 141.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	巻頭言
著者版フラグ	publisher
JaLDOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.2021 018
メタデータのURL	https://mylibrary.toho u.ac.jp/webopac/TD17806101

地球温暖化：ジャクソンブラウンの憂い

赤坂 喜清

東邦大学大学院医学研究科先端医科学研究センター組織修復・病態制御学研究室

新型コロナウイルスの感染拡大が続き、9月13日に緊急事態宣言期間の延長が決まった。飲食店の営業時間の短縮や酒類提供は停止される。昨年1月に発生した新型コロナウイルス感染症は種々の活動自粛から大学生の勉学や課外活動にも大きな影響を及ぼしている。学生時代を昭和で過ごした筆者にとって、近年の東日本大震災や新型コロナウイルス感染症など天災や感染症による異常な環境変化がもたらす学生生活の負の影響が大変心配でならない。

環境に及ぼす計り知れない影響として地球温暖化現象が全世界で問題となっている。最近、国連の気候変動に関する政府間パネル（IPCC）は、地球温暖化の科学的根拠をまとめて第6次評価報告書を発表した（<https://www.bbc.com/japanese/58142213>）。ここで公表された地球温暖化の現状は

1. 2011～2020年の地表温度は1850～1900年に比べて1.09度高かった。
2. 海面水位の上昇率は1901～1971年に比べて3倍近く増加した。
3. 1990年代以降の水河の後退は、90%の確率で人間が原因と考えられる。
4. 1950年代から暑さによる異常気象が増え、寒さの異常気象は減っている。

この報告では気候変動による悪影響とされる将来への影響について明確に断定している。

1. 2040年までに気温が、1850～1900年水準から1.5度上昇する。
2. 2050年までに北極海では、ほとんど海水がなくなる現象が少なくとも1回は起きる。
3. 気温上昇を1.5度に抑えても、猛威をふるう異常気象が増加する。
4. 2100年までに極端な海面水位の変化が少なくとも1年に1度は起きる。
5. 多くの地域で森林火災が増える。

これらを裏付けるように、今年アメリカ西部やギリシャで大規模な山火事が発生しており、またドイツや中国では深刻な水害が起きている。不気味なことに2040年より早い時期に「1.5度上昇」が起きることも示唆している。もし「1.5度上昇」すると「激しい熱波が頻繁に起きる」「集中豪雨や干魃が増える」が起きる可能性がある。これに対して今後の展望が明らかにされた。すなわち2030年までに地球全体の温室ガス排出量を半減できれば気温上昇を食い止めることができるようだ。特に温室効果ガス実質ゼロ（ネットゼロ）の実現のために、クリーンエネルギー技術開発による温室ガス排出量の削減の可能性を示している。さらに植林による炭素吸収などの取り組みの必要性を示し、温室効果ガス削減による地球温暖化を軽減することを諦めてはいけないことを警告している。いずれにせよ今回の報告によれば「人間がこの惑星を温暖化させている。これは明確であり、議論の余地がない」と結論づけている。

環境問題などに取り組んできた米国のシンガーソングライター、ジャクソンブラウンは人類の過去の歴史を踏まえて、興味深い警告を鳴らしている（朝日新聞2021年8月9日「人間こそがウイルスかもしれない」ジャクソンブラウンに聞く）。「先住民を殺して土地を奪い、奴隷を連れて作った移民の国の米国が、今度は移民を排除するようになった」。彼のアルバム「ダウンヒル・フロム・エブリホエア」では人間の欲望がもたらす汚染やプラスチックごみ、戦争や環境破壊が、川から海へと注がれ、地球に大きな環境問題を引き起こしていると述べている。環境を破壊し、ある種の生き物を絶命に追いやってきた人類の将来について「人間はものすごいスピードで世界中に広がり、地球を破壊し、ある種の生物を絶滅させた」とも述べている。最後に述べた彼の憂いが印象深い。「人類のこれまでの地球環境破壊などから、もしかすると、人間こそ一種のウイルスなのではないか、と」

DOI: 10.14994/tohoigaku.2021-018